

精密合成化学セミナー（第6回）

エピジェネティクスを標的とした創薬化学研究

鈴木 孝禎 博士

（大阪大学産業科学研究所・教授）

DNAの塩基配列の変化に依らない遺伝子発現制御機構は、「エピジェネティクス」と呼ばれている。これまでにヒストンのリシン残基のメチル化などの化学修飾がエピジェネティクス機構の一部であることが分かっている。また、エピジェネティクスの異常は、疾患の原因となることもよく知られている。我々の研究グループは、「エピジェネティクスの異常状態を正常状態に戻すことにより、病気の細胞は健康な正常細胞に変わり、疾患が治癒される」という仮説を基に、有機化学をベースにエピジェネティクス制御化合物の創製研究を行ってきた。本セミナーでは、治療薬候補化合物としてのヒストン脱メチル化酵素阻害剤の創製研究を紹介する。

2021年3月12日(金) 15時より

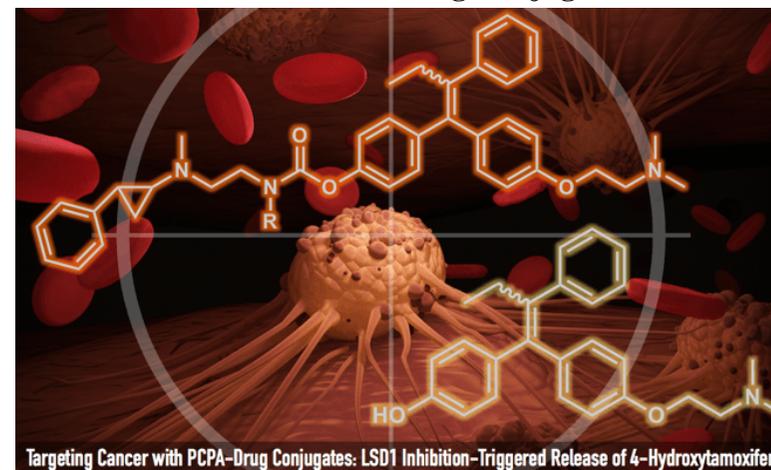
コラーニングハウスII 4F CII講義室

問合先 精密合成化学研究室 土肥寿文（内線 6181）

【共催】R-GIRO

「有機生命資源の有効利用による電子・光機能性材料の創製」

(1) LSD1 inhibitor-Drug Conjugates



(2) KDM5C inhibitors

